

INTERVIEW

今年の5月から理事長になりました。歴代の理事長の功績の元でプレッシャーはありますが、70人近くいる会員の高齢化が進む中、私たちの年代が次に引き継ぐため、活動をより発展していかなければと考えています。特に、私たちの年代は「引き揚げ」を直接体験していない分、体験者の「思い」をしっかりと代弁していくことが重要です。

そんな中、学生語り部は私たちより若い世代にもかかわらず、その「思い」を受け止め、さらに下の世代へ分かりやすい言葉に置き換え伝えていきます。まさに「次世代から次世代へ」伝えている姿は、私たちも見習わなければと思っています。

「引き揚げ」の史実の継承は、今後も市は手を休めず続けてほしいと思います。「引き揚げ」がただ大変だったとか、悲しい思いをしていたとか通り一遍ではなく、平和の尊さや命の大切さをしっかり考えていくことが、ご苦労された人の気持ちに添えるのではないかと考えており、それらの思いを胸に、市・学生語り部とともに伝えていきたいと考えています。

引揚語りの会理事長  
勝島 勝彦さん



年、引揚者を迎えた地域の人々の証言を得て「引揚者を迎える歌」を、生徒の皆さんと先生が一丸となって復活させ、忘れ去られようとしていた記憶の継承に大きく貢献しました。

**未来に向かって**

学生語り部は舞鶴引揚記念館のイベント開催などに合わせて活動しています。今年の3月には、沖縄での記念館巡回展で語り部活動をしたほか、琉球大学の学生と平和や戦争について意見交換

しました。

今後は、国内各地の次世代を担う若い世代との交流や海外の研究者、若者との交流を視野に入れて、より世界的な視点から戦争や平和について見識を深める活動も展開していきたいと考えています。市としても、こうした学生語り部を支援することで、若い世代へ史実を継承していくとともに「引き揚げ」という歴史的な役割を果たしてきた使命として、恒久平和への思いを発信し続けていきます。

平和祈念式典

毎年、10月7日に近い土曜日に平和祈念式典を開催しています。今年も式典終了後に学生語り部による館内案内や紙芝居も実施します。

【日時】10月8日(土)14時～15時

【場所】引揚記念公園

【内容】平和への願いのメッセージを発信

【問い合わせ先】引揚記念館(☎68・0836)



上左右) 活躍する学生語り部

INTERVIEW 学生語り部を始めたきっかけや思い

引揚記念館は、小学校の社会見学で来た時から知っていて、興味も少しありました。中学生になって先輩に語り部のことを教えてもらい、やろうと思えました。もともと人前で話すのが得意でないのに、実際やるとすごく緊張して失敗することもあります。もっと練習してしっかり伝えるように話していきたいです。舞鶴に住んでいて、引揚記念館は知っているけれど内容は知らない人がいるので、これからの活動で伝え、一人でも多く、舞鶴にいれば「引き揚げ」のことは当たり前知っている人というを増やしたいです。

若浦中 2年 林 琉希さん



若浦中で一つ上の先輩が、語り部の勧誘をしていて、自分が住んでいる舞鶴で昔あったことを知らないのは良くないなと思ったこと、先輩が堂々としゃべっているのを見てかっこいいなと思って憧れたこともあって語り部になりました。語り部として活動している中、2つ歳の離れた後輩が語り部を始めているのを見ると、自分の活動が少しずつ広がっているようでうれしいです。今後、全国の同世代や自分たちより下の世代に「引き揚げ」のことを知ってもらうために活動し、全国に「引き揚げ」の史実が伝わればと思います。

西舞鶴高 1年 吉田 透子さん



私は舞鶴に住んでいますが、福知山の学校に通っています。引揚記念館に行った時、福知山の友達に舞鶴に住んでいるからということいろいろ聞かれて答えられないことがありました。そんな時、広報まいつるに語り部養成講座の記事が出ていて母から教えてもらって、それで始めました。若浦中には語り部を伝えていく仕組みができあがっていますが、他の学校はそうではなく、小学生の時に引揚記念館に行ってもそれ以降「引き揚げ」とのつながりが薄れていきます。若浦中みたいなことはできなくても、活動を続ける中で、他の学校でも「引き揚げ」を伝えていけるよう、活動の幅を広げられたらと思います。

福知山高 1年 平野 星那さん



語り部の活動は、若浦中に入ってこの地域でしかできないことは何かと考えたとき、地域特有のことはこれだと思ってやってみたくなりました。小学生の時には、引揚記念館に行っても興味が湧かなかったけれど、先輩の話や先輩の話を聞くと新鮮な話が多く、聞くのも話すのも楽しいと、語り部をやって初めて分かりました。自分の体験も踏まえ、小学生で興味のない児童や、中学生の後輩に少しでも「引き揚げ」について興味をもってもらえるような語り部になりたいです。

若浦中 2年 宵田 琉偉さん



**10月7日舞鶴引き揚げの日**

第二次世界大戦終結後の1945年10月7日、海外にいた日本人を乗せた引き揚げ第一船が舞鶴港へ入港。心身ともに疲れ果てた引揚者に対し、舞鶴の人々は沿道で「おかえりなさい」「ご苦労さまでした」と声を掛け、東西の駅ではお茶やふかし芋などを配り、温かく迎え、ふるさとへと見送りました。

博愛の精神をもって、引揚者を迎えた歴史と平和への願いを未来へと伝えるため、2018年9月、市民一体となって「舞鶴引き揚げの日」を制定しました。

**舞鶴引き揚げの日「給食」**

舞鶴引き揚げの日を広く知っていただくため、市役所のロビーでの展示や平和祈念式典を開催。2020年

**次世代による継承**

これまで次世代への継承を課題にしてきた中、2017年に初めて学生の語り部が誕生。自ら希望して語り部養成講座へ参加し「戦争を二度と繰り返さない」との思いから活動をスタートしました。現在では30人の中学・高校生と専門学校生・大学生が活躍しています。

また、引揚記念館に近接する若浦中学校では2020

からは学校給食で「引き揚げの日」メニューとして、かつて引揚者の帰国手続きをした「舞鶴(地方)引揚援護局」で引揚者に提供された食事のレシピの資料をもとに、当時の引揚者が最初に口にした日本の食事を再現し、市内全小・中学生が食を通して舞鶴のまちの歴史「引き揚げ」について学習しています。

シリーズ・市政の今

No.104

第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組む施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回は、引き揚げの史実を通じた平和施策についてお知らせします。



SDGs未来都市



舞鶴引き揚げの日  
恒久平和への思いを発信